

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



湘北短期大学の SDGs について ご紹介するニュースレターです

～発行者からのお知らせ～

23年度から、Webサイト湘北SDGsを開設し、授業や大学全体の取り組みを紹介しています。

ニュースレターでは、Webサイトに掲載した記事の中から、学科の授業や部門ごとの活動を、カテゴリー別にまとめて紹介していきます。

今後とも湘北短期大学は地域に根ざした教育機関として「Think Globally, Act Locally」を合言葉に、社会課題の解決にむけて持続可能な未来の創り手を社会に送り出していきたいと思います。

《映画で学ぶSDGs》

築瀬ゼミでは、映像作品を題材にSDGsを学んでいます。学生に人気の2作品をご紹介します。

ワンダー 君は太陽

2017年、米、113分
配給(株)キノフィルムズ、文科省特選



生まれつき見た目の障がいを持ったオギーが壁を乗り越えて仲間と成長していくストーリー。教育や社会について考えるポイントが満載！

ドリーム

2016年、米、127分
配給 20世紀フォックス
(現 20世紀スタジオ) 文科省選定



舞台は1960年代のアメリカ。NASAで働く3人の黒人女性が、差別や偏見、様々な社会の障壁を乗り越え、自分の力で前進していく物語。

湘北 SDGs

Think Globally, Act Locally.

2024年度 第4号

(通算第19号)

今回の発行人 築瀬千詠

yanase@shohoku.ac.jp

学校法人ソニー学園 湘北短期大学

生活プロデュース学科・リベラルアーツセンター

〒243-8501 厚木市温水428 TEL:046-247-3131 FAX:046-247-3667

【授業紹介】「色彩学」衣服の“最終的な行き先”を考えるSDGs

(2024年前期)

今期「色彩学」(生活プロデュース学科選択科目)は、ファッションに関心のある履修学生が大変多いため、学習の発展として映画『燃えるドレスを紡いで』関連映像を授業内で観ました。現在日本で唯一のパリオートクチュールデザイナーである中里唯馬氏のドキュメンタリー映画です。



<https://dust-to-dust.jp/#modal>

環境負荷が高いといわれるファッション業界で大量生産・大量消費によって生まれた衣服。“ゴミ”となった衣服の最終的な行き先のひとつになっている、アフリカケニアで暮らす人たちのリアルな一言「これ以上、服を作らないでほしい」……各コースの1・2年生の胸にも響いた言葉だったようです。

■服をゴミとして出してしまう人が多いのは、その何気ない行動が環境破壊に繋がるという意識の差が原因なのだと感じました。ゴミとなった服をドレスにする取り組みを見て、着なくなった服はリサイクルをする、人に譲るなど、ゴミを増やさないという意識も同時に高めていくことが必要だと思います。(1年子どもサービスコース Yさん)

■世界中からいらなくなった服がアフリカのケニアに集まっていることを初めて知りました。食品ロスは知っていましたが、現地の人々が服を作らないで欲しいと言うほど大量の服のゴミがあることも初めて知り、とても驚きました。(2年医療事務コース Kさん)

■映像で「服を作らないでほしい、世界中に服は十分にある」と言っていて、時期ごとにトレンドがあって服を作らなければならないというのも分かるから難しいなと思いました。自分も毎月新しい服を買ってしまうので今持っている服を大切にしたいと思いました。(2年医療事務コース Hさん)

■沢山の衣服が乱雑に置かれている情景を見て、手軽に洋服を手に入れられる時代だからこそこのような状況になってしまっていると感じました。今後自分がファッションと関わっていく上で、購入からその後まで責任を持つことが大事だと気づきました。(2年ファッションコース Dさん)

■服は自分の個性を表すものなのに、ゴミとして人目のつかないところで捨てられ燃やされてしまうのはもったいないと感じました。私は服を買う時にすぐ飽きないかを考えて購入したり、長く着られるように意識しています。(フードコース2年Uさん)

■世界中で行き場のないゴミが溢れていると聞きます。誰かが住んでいた場所も(捨て場として)占領されてしまうのかと想像すると、感染症や貧困を引き起こす原因にもなるのではと思いました。「人が人に害を及ぼしている状況を変えていかなければならない」と私達一人一人が意識するだけで少し今の状況は変わると思います。私は、いつも着なくなった服は捨ててしまいます。しかし、廃棄せずに再利用できる方法は沢山あるので、捨てる以外の選択肢を考え、行動しなければならぬと映像を見て感じました。(インテリアデザインコース2年Tさん)



■現在値段も安い通販サイトも話題になっています。以前自分でも値段にこだわり質を諦めてしまい、すぐ破けて捨てたことがありました。こういったことが積み重ねられた結果があんなゴミの山なのだと感じました。SDGsは他の授業でも学んでいたため、最近は質を妥協せず、少し値段が高くても長く気続けられるもの・ちゃんと着るものを選ぶようにしています。

(インテリアデザインコース2年Iさん)

(生活プロデュース学科 非常勤講師 小島由記子)

納涼映画鑑賞会
 湘北生なら誰でも参加できる映画鑑賞会を3日間開催します。興味のある映画を鑑賞しに来てください。昼食をとりながらの鑑賞もOKです。

1日目：上映映画
 7/23 12:50 ガザ 素顔の日常
 ~14:40

2日目：上映映画
 7/24 12:50 プラスチックの海
 ~14:40

3日目：上映映画
 7/25 12:50 ザ・トゥルー・コスト ~ファストファッション 真の代償~
 ~14:40

会場：611教室
 主催：LAセンター (LAC@shohoku.ac.jp)

【取り組み】 SDGs 映画鑑賞会開催 (2024年7月)

リベラルアーツセンターでは、7月23日~25日の3日間、SDGsの理解促進を目的とした納涼映画鑑賞会を開催しました。上映したのは左の3作品で、図書館所蔵ユニテッドピープルの教育機関用DVDを活用しました。ジェネラルイングリッシュやゼミナールの授業の一環として参加するクラスもありました。鑑賞後のアンケート回答者には、参加賞としてSDGsバッジを配布しました。本学の教養教育を担うリベラルアーツセンターとしては初の試みでしたが、こうした取り組みを通じ、学生や教職員が社会課題への関心を高め、行動変容に繋がっていくことを期待したいと思います。学生や教職員の感想の一部を紹介します。

《ガザ 素顔の日常》

配給：ユニテッドピープル
2019年
アイルランド、カナダ、ドイツ
92分 ドキュメンタリー

■物事の表面だけでなく本質を知ること、という作品中の女性の言葉が印象に残った。戦争について、募金や支援に興味を持ったので、もっと調べてみたいと思った。(学生)

■ガザ地区の人々にも様々な立場の違いがあるのだと思った。この戦争についての情報にもっと目を向けていきたい。(教職員)



《プラスチックの海》

配給：ユニテッドピープル、
宣伝：スリーピン、
2016年

イギリス、香港、100分
■永遠に残るかもしれないペットボトルなどのプラスチックが、日光のあたらない海に溜まっているところから、人間の、プラスチックと海に対する関心の低さに気づいた。これからは、本当にそのプラスチックは自分にとって重要なものなのか、よく考えてから買うようにしたい。(学生)



《ザ・トゥルー・コスト~ファストファッション 真の代償~》

配給：ユニテッドピープル、特別協力：ピープル・ツリー、
協力：Dr. Franken
2015年 アメリカ、93分

■食品ロスについて考える機会はありませんでしたが、衣服の問題に関して考えたことはありませんでした。古着屋やリサイクルショップの見方が変わりました。長い時間、大切に衣類を使うように意識を変えたいと思いました。「血でできた服を着てほしくない」という女性の言葉が印象に残りました。(学生)

■手にしているもののサプライチェーンに思いを致すことはよくあるが、そこで働く人の状況をもっと知るべきだろう。(教職員)



※QRコードでユニテッドピープルの公式サイトが閲覧できます。

(リベラルアーツセンター 築瀬千詠)